

愛知県自然環境保全地域

# 蓮華寺寺叢



# 愛知県自然環境保全地域とは

わたしたちが、健康で文化的な生活を享受していくためには、単に物質的な豊かさのみでなく、自然とのかかわりの中で、豊かな精神性を養うことが必要です。自然は、生命をはぐくむ母体であり、単に経済活動のための資源としての役割を果たすのみでなく、それ自体が豊かな人間生活に不可欠な役割をもっています。

このため、自然環境保全施策の基本となる法制度として、国においては、昭和47年に「自然環境保全法」が、愛知県においては、昭和48年に「自然環境の保全及び緑化の推進に関する条例」が制定されました。

愛知県自然環境保全地域は、この条例によって指定されるもので、すぐれた天然林や貴重な動植物の自生地などの貴重な自然環境を有する地域を、わたしたちの共通の財産として、将来にわたって保全しようとするものです。



## 蓮華寺寺叢の自然

蓮華寺寺叢が位置する濃尾平野は、更新世（洪積世）と完新世（沖積世）とからなる水成堆積平野ですが、地形的に見ると典型的な河川地形が上流から帯状に配列することで有名で、犬山扇状地・一宮自然堤防地帯・蟹江三角州と人工的な干拓平野に区分されています。

蓮華寺寺叢は、一宮自然堤防地帯の南端に位置し、標高が11.8mもあり、自然堤防の現地形を残しているうえ、この小丘には、天然性の常緑広葉樹林がみられる貴重な自然となっています。

### 自然堤防

自然堤防は、蛇行する河川の流路に沿って両側に発達する微高地で、自然堤防の間には後背湿地と呼ばれる低地が存在しています。岩倉市街地から南へ西春町に至る一帯、一宮市東部から青木川・五条川に沿って新川町に至る一帯、一宮市街地から南南西へ日光川に沿う一帯に顕著で、後背湿地に対して0.5m～3mの比高を示しています。

濃尾平野の各地の自然堤防上では、縄文後期から弥生時代にかけての遺跡が多数発見されています。これらの微高地は、古くから安定した生活空間として利用されていたようすがわかります。



保全地域内にある二等三角点



名鉄津島線以南（海拔1.5～2.0mの等高線より南）は、蟹江三角州地帯の境界になります。

この境界あたりは奈良時代（約1200年前）以前は海岸が発達しており、その後の河川堆積物により陸化した低湿地です。三角州地帯は自然堤防の発達が悪く小規模で連続性に乏しく、後背湿地との比高が0.5m前後のことが多いようです。

## 蓮華寺の植物

尾張地方は各地で開発が進み、自然植生の姿をとどめる常緑広葉樹林は少なくなりました。尾張でも東部の丘陵地帯はまだ森林が多く、知多半島には神社や寺院の森が点々とですが残っています。ところが名古屋市を含む尾張西部の平野ではどこも都市化して、社寺にも庭園木がわずかにあるだけで、いわゆる鎮守の森と呼べるところはほとんどなくなりました。その中で蓮華寺の森は例外で、昼なお暗い自然林が残っており、この地方が開発される以前の本来の自然植生を知る上で貴重な存在です。

林内にはイチイガシ、シラカシ、クロガネモチ等の高木が自生し、イチイガシ、シラカシは多くのどんぐりを着けます。イチイガシのどんぐりは他のカシと違って渋みがなく食用になります。面倒な渋ぬきを必要とせず、イネが渡来する前の縄文時代の人々に喜ばれたものでしょう。

シラカシは、庭園木としてもよく見かけます。クロガネモチは尾張各地の神社や民家でよく見る樹で、雌樹には赤い果実がいっぱい着いて美しいものです。

林内の歩道の途中にツツジ科のシャシャンボの古木があり、一部の枝が枯死して添え木が立ててあります。シャシャンボはカシ類やクロガネモチの様に高木にはならず、それがこのように大きくなっているのは、この森が古くから存在する証拠といえましょう。

林内で目立つのはイヌビワとその変種で葉の細長いホソバイヌビワです。両者ともクワ科でイチジクに似た果実を着け食べられます。これは暖地性の樹で蓮華寺より北ではほとんど見られません。これらの樹下にはビナンカズラ、スズメウリ、カラスウリ等のつる植物がはびこっています。

林の下には草と同じくらいの小低木もあり、マンリョウやヤブコウジで、大木の影で日光が少なくても適応して生きています。暗いところに多いシダ類では、ベニシダ、フモトシダ、イノデ等があり、樹幹にはノキシノブが着生しています。林内は暗いので下草は割に少なく、ヤブミョウガ、ミズヒキ、チジミザサ等を見かけます。

帰化植物の侵入は少なく、ヨウシュヤマゴボウが少数あるだけです。在来の植物が健在しているこの森には入りこむ余地がないのでしょうか。



イチイガシ

(ブナ科)

各地のお寺の境内などでよくみかけられる高木です。

多くのカシ類の中で葉の裏面に黄褐色の短毛が密生するのが特徴です。

シャシャンボ

(ツツジ科)

常緑の低木で、6月から7月にかけて白い鐘形の小さな花を咲かせます。

老木になるとすべすべした樹皮となるのが特徴です。



ヤブミョウガ

(ツユクサ科)

夏に白い花を咲かせ、青藍色の実がなります。

藪などの日陰を好み、ミョウガに似た葉をつけることから名付けられました。

ミズヒキ

(タデ科)

日陰を好む多年草です。

8月から10月にかけて、上側が赤く、下側が白い「水引」に似た花を咲かせます。



# れんげじじそう 愛知県蓮華寺寺叢自然環境保全地域の保全計画

(昭和50年1月31日指定)

## 指 定 理 由

地域の北部の小丘は、木曾川の自然堤防の名残として特異な地形を形成している。また、この小丘に尾張平野の潜在植生を知るに足る天然性常緑広葉樹林が成立している。

しかしながら、当該地域の周辺部は、農村地域から住宅地域に変わりつつあり、人為の影響を受けつつある。

したがって、自然堤防の名残りの小丘を中心とする生態系を保全するため、自然環境の保全及び緑化の推進に関する条例第20条第1項第2号の特異な地形と一体となって自然環境を形成している地域として愛知県自然環境保全地域に指定するものである。

## 保 全 計 画

### 1 保全すべき自然環境の特質

#### (1) 地形

木曾川の送流砂礫の堆積により形成された自然堤防が標高11.8mの小丘として残存している。

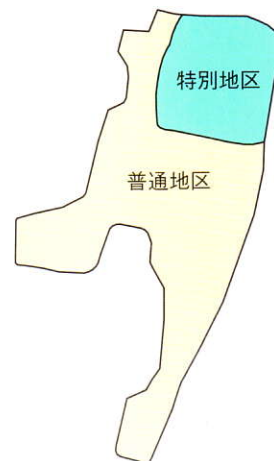
#### (2) 植生

小丘を中心に天然性常緑広葉樹林が密に繁茂し、かつ、樹齢も高く老大木となっている。

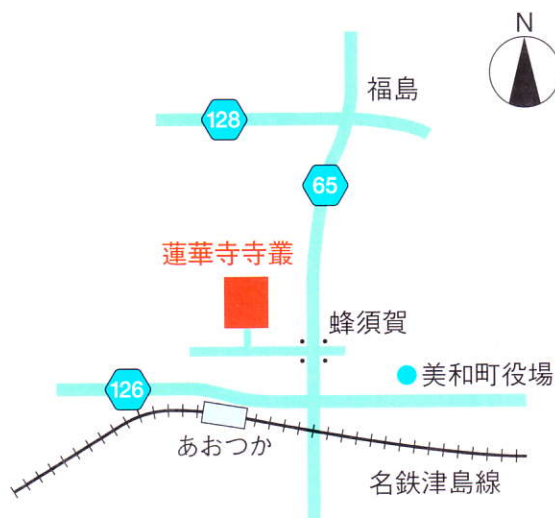
高木は、イチイガシ、シラカシ、アカガシ等のカシ類が優占し、亜高木にヤブツバキ、モチノキ、イスノキ、カクレミノ、ヒメユズリハ、サカキ等があり、低木にヤブニッケイ、アオキ、ネズミモチ、ヒサカキ、シャシャンボ等がある。

### 2 面積

| 特別地区    | 普通地区    | 合計      |
|---------|---------|---------|
| 0.324ha | 1.885ha | 2.209ha |



蓮華寺寺叢自然環境保全地域区域図



所在地 海部郡美和町大字蜂須賀

### 問い合わせ先

#### 愛知県環境部自然環境課

名古屋市中区三の丸3-1-2  
電話 (052) 954-6229 (ダイヤルイン)

#### 愛知県海部事務所環境保全課

津島市西柳原町1-14  
電話 (0567) 24-2111 (代)

#### 美和町経済課

海部郡美和町大字木田字戌亥18-1  
電話 (052) 444-1001 (代)

### 愛知県リサイクルマーク



再生紙(古紙配合率100%)を使用しています。

※このパンフレットを作成するにあたり、熊谷尚久氏(愛知県環境審議会専門調査員)のご協力を受けました。